



マツ苗木 試験植栽の実施

平成27年4月19日（日）、陸前高田市小友町字浦の前に造成した試験植栽地において、**高田松原を守る会**など、市民による松原再生活動を支援する**(一財)ベターリビング**、**(一財)日本緑化センター**による**苗木の試験植栽**が行われた。

この試験地は広田湾から約1km内陸に位置し、岩手県が現在進めている防潮林帯造成（地盤L=1.3km）に使用する土と同じ土を盛土して作ったもの。

土の締め固め具合による根の伸長を確認する目的から、3つの区画を準備。

試験区A：重機による締め固めを行った箇所

試験区B：重機による締め固め後、表層60cmをバックホウで耕転しバックホウで1往復転圧を行った箇所

試験区C：土を盛った後に重機で締め固めない箇所

この3区画に**抵抗性クロマツ苗**（宮城県産 苗長15cm程度）と**抵抗性アカマツ苗**（岩手県産 苗長30cm程度）を1列ずつ交互に合計384本を植え付けた。

植え付けに際して、初期生育に対する風の影響を緩和するねらいから、衝立篋(ついたてず)（縦60cm×横40cm）を20cm地中に埋め海側に立てた。苗木には1本当たり固形肥料5個（まるやま1号）を表層に施用した。

今後、毎月枯損木、雑草の発生状況などを記録し、1年後に内陸側の4列分を切り崩し、根の生育状況を確認する。さらに、平成29・30年にも各4列の苗木について根の伸長状況を調査する。

快晴に恵まれた植付け作業当日は、午前9時からスタートした。

ベターリビング清水専務理事、高田松原を守る会鈴木会長のご挨拶に続き、当センターから衝立篋を設置する要領、守る会小山副会長より苗木植え付けのデモンストレーションを行い、その後、各区画に分かれ参加者による苗木植栽が実施された。

当日は、高田松原を守る会10名、ベターリビング（ブルー&グリーンプロジェクト関連企業含む）12名、ボランティア（大館ボラバスプロジェクト：秋田県大館市 他）27名、当センター4名、総勢53名の参加を得て、14時過ぎに植栽を完了した。



作業のようす（ベターリビングのみなさん）



©(一財)日本緑化センター
苗木植栽のようす (守る会)



©(一財)日本緑化センター
衝立簀設置のようす (ボランティア)



©(一財)日本緑化センター
試験区Bの植え付けを行う参加者の皆さん



©(一財)日本緑化センター

植え付けの完了した苗木と衝立簀

ここは **高田松原再生** に向けた **試験植栽地** です。

試験植栽の目的

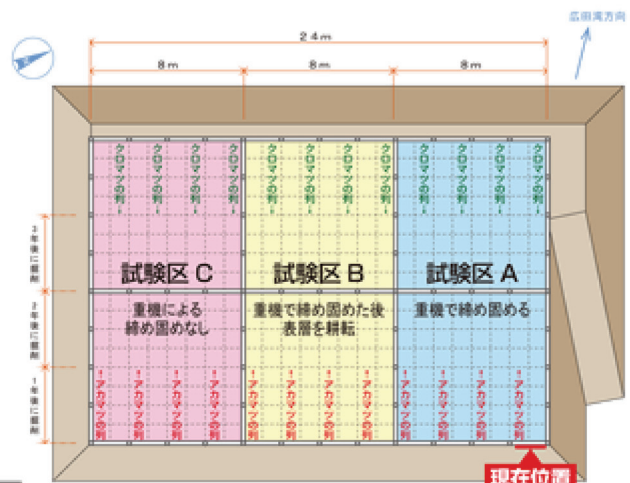
「市民による高田松原再生活動」は、高田松原を守る会を通して、(一財)ベターリビングで推進しているブルー&グリーンプロジェクトに(一財)日本緑化センターが技術協力を行い進めていくものです。

活動の一環として、松原の植栽基盤と同じ土を使い、土の締まり具合による根の伸びや排水不良への影響を確認します。試験結果は岩手県に情報提供するとともに、市民による本番での植栽に役立てます。

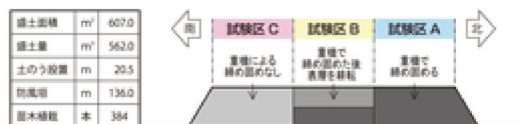
マツ苗は平成27年4月に植え、その後毎年4列を切り崩して根の生育状況などを3年間調べます。

試験植栽地平面図

- 風の影響を均一にするため、防風壁で囲い、苗木1本ずつに風除けの衝立を立てます。
- 試験区は以下の3種類があります。Aは重機で締め固める、Bは重機で締め固めた後表層を耕耘、Cは重機による締め固めなしとしています。
- 各試験区にクロマツ・アカマツを交互に、3試験区合計で384本植えます。



試験植栽地断面構成図



実施主体 高田松原を守る会 (一財)ベターリビング (一財)日本緑化センター TEL: 03-3585-3561 日本緑化センター 緑化

試験地看板図